

## 住様式・住居観に関する記述

- 1911年 8 月 85頁 千五百圓で出来る洋風の住宅 橋口 信助  
勤め先の官廳會社等は西洋風でありますと、入つては和服の日本風をなし、出でゝは洋服の西洋風をなすという工合に、和洋兩用の衣服を要する譯で、實に不便極まる次第で御座います
- 1911年 8 月 85頁 千五百圓で出来る洋風の住宅 橋口 信助  
第一掃除の手數も省け、召使の人數も減りますし、用心もまた堅固で、一家打揃うて外出するとしても、別に雨戸を操るでもなく、入口の扉に一つ錠をおろして置けば、心置きなく出らるゝといふのでありまして、その便否は逆（とて）も比較にならない位で御座います
- 1911年 8 月 88頁 千五百圓で出来る洋風の住宅 橋口 信助  
寢室に限り疊を敷いてもよろしく
- 1911年 9 月 77頁 中等の洋風住宅 橋口 信助  
屋根裏を利用して、光線のとれる限り寢室をとり、光線のとり悪い四隅を押入に
- 1911年 9 月 77頁 中等の洋風住宅 橋口 信助  
日本人の生活には多少疊敷の所が要りますので一略一寢床の都合のためには寧ろ疊にした方が便利でありませう
- 1911年10月 91頁 主婦の部屋の設備 井村 延子  
茶の間は時として食堂、娛樂室などに使はれますから、殺風景にもしたくありません
- 1911年10月 91頁 主婦の部屋の設備 井村 延子  
主婦の部屋は大抵茶の間と兼帯
- 1911年10月 92頁 主婦の部屋の設備 井村 延子  
机に向ひますと、一寸立つのが面倒になりまして、自身で取つて來ればよいと知りつゝ、手のすかぬ女中まで呼び立てたりすることが御座います。椅子テーブルに改めました所、自分ながら不思議なほどまめになりました
- 1911年10月 92頁 主婦の部屋の設備 井村 延子  
（主婦室）子供等も打寄って火の傍に坐ります。かうして楽しい食後の一二時間を話し興じます
- 1911年11月 71頁 天然を利用した建築 橋口 信助  
客間一略一隣の食堂との間仕切は折戸を用ひました。これは多數の來客の時には之を疊んで、客間まで食堂を擴げやうと
- 1912年 1 月 108頁 子供本位に建てられた家 藤田讓氏の新邸 読 者  
屋内から庭先から、すべて子供のため、子供を教育するに都合のよいやうにと、全く子供本位に一略一贅沢な考よりも何うすれば丈夫な家が出來上るか、子供達が好きに家の中を駆け廻つても差支ないかといふやうなことを主に致しまして、間取りなどもすべて私ども兩親の都合よりも、子供達の生活に都合の宜いやうにと工夫いたしましたので御座います
- 1912年 1 月 109頁 子供本位に建てられた家 藤田讓氏の新邸 記 者  
（夫人の室）右も左も家内中の事は坐つて居ても大概知られるやうになって居ります
- 1912年 1 月 110頁 子供本位に建てられた家 藤田讓氏の新邸 記 者  
無双窓にしてありますゆゑ、盛夏の頃でも窓を開いてさへおけば、自然に風を通しまして、食物の腐敗を防ぐ



- 1912年 1 月 110頁 子供本位に建てられた家 藤田譲氏の新邸 記 者  
 全體の室々一つとして日の當らぬ風の通さぬ處はありません
- 1912年 2 月 16頁 中流の生活問題 如何に生活を改善すべきか 竹越與三郎  
 西洋館であれば戸締りも手輕で、一寸買物に出るにも安心して出られるし、掃除其の他に人手を要することも少い一略一四方明け放しの日本家屋では、一寸出るにも留守番がいり、掃除や小間使ひのために勢ひ下婢も置かねばならぬ
- 1912年 2 月 96頁 何うして古家が新しくなったか ジー・ジェー・パレット  
 居間は家中の一番立派な室
- 1912年 4 月 19頁 衣食住の問題 過渡時代の衣食住 本多 静六  
 日本の家屋は締りがなく、玄關からも入られるし、臺所からも出入りが出来て、四方開け放し一略一第一雨戸が不都合である。宜しく椽側を改めて、西洋のバルコン式の外椽とするがよい
- 1912年 4 月 20頁 衣食住の問題 過渡時代の衣食住 本多 静六  
 座敷は追々疊を廢して板の間にせねばなるまい。一略一今日學校や役所や事務所等、晝間働く所は皆椅子にかけるのに、獨り家庭だけが坐るといふのは矛盾した話である
- 1912年 4 月 20頁 衣食住の問題 過渡時代の衣食住 本多 静六  
 寺小屋教育を受けた老人の生存して居ること一略一老人のある家では疊も必要一略一之は過渡時代のこと
- 1912年 4 月 20頁 衣食住の問題 過渡時代の衣食住 本多 静六  
 西洋風にして置けば、外に出るにも手輕
- 1912年 4 月 24頁 衣食住の問題 外國から觀た日本の衣食住 原 撫松  
 西洋の住家は一略一お客のためよりも自分達の住んで都合のよいやうに造つてあります。一略一彼地では家の主要部は、主人の居間即ち、書齋とこれに次いで主婦の居間でありまして、日當りのよい風通しのよい、出来ることならば眺望のよい位置に主人の居間を取り一略一客間は其の次ぎの位置においてあります。即ち彼にありては住家は他人のためではなく、自分の住むために作られてあるのであります
- 1912年 4 月 24頁 衣食住の問題 外國から觀た日本の衣食住 原 撫松  
 日本の家屋は自分のためよりも、寧ろ他人のために作られて居るやうな傾きのあることであります。一略一これは一面からいへば、客を歓待するといふのであって、そこに麗しい情が見えないではないが、併し考へて見ると随分可笑しな話で、住家といふものゝ本義を没却したものといはねばなりません
- 1912年 4 月 26頁 衣食住の問題 外國から觀た日本の衣食住 原 撫松  
 (西洋の) 間取の工合いは皆自分の住むに勝手のよいやうに作り、且つ目下の必要から割出してあります。殊に臺所の如きは、すべて日常の必要から割出され、随分大きな家でも思ひの外狭く、中央に立って居て一寸足を動かすだけで、四方の棚に手の届く
- 1912年 4 月 26頁 衣食住の問題 外國から觀た日本の衣食住 原 撫松  
 日本の家で、いま一つ目立って見えるのは、まさかの時のためにといふ所から家を建てた形跡の多いことであります。或は婚禮とか、或は葬式とか、其他多勢のお客をする時に、これでは狭いから、斯ういふ部屋を取って置かうとか、今は不用だが一略一一年に一二回か、若くは何十年に一回の必要のために、平生用のない所に意を用ゐた跡があります一略一これ等も考へて見ると餘り賢明な仕方とは言へません



- 1912年4月 57頁 中流の衣食住はかく改めたし 羽仁もと子  
日本室はどういふものか埃だって朝夕に掃除しなければならないけれども、西洋館は一略一大概の部屋は一日置きに掃除しても、いつも綺麗である
- 1912年4月 58頁 中流の衣食住はかく改めたし 羽仁もと子  
客室に椅子卓子を備へて置くと、唯來客をそこに案内する丈で煙草盆や座敷團を持ち運ぶ世話ありません。訪ねた方でも、手数のかかる日本室に坐りますと、ツイゆっくりした氣持になりますが、椅子のある部屋でありますと、事務的に用事を済ませて帰るのに、大層工合が宜しう御座います
- 1912年4月 58頁 中流の衣食住はかく改めたし 羽仁もと子  
一室々々の區別がキチンとしてゐるので、猥に人が部屋から部屋と歩き廻らない
- 1912年4月 59頁 中流の衣食住はかく改めたし 羽仁もと子  
寢室は別に二階に、日本間風の構造（疊なし）にして、二方若くは三方に廊下をめぐらし、部屋の障子は締切って欄間障子だけ少しあけて寢んで、外側の廊下の窓障子を所々あけて置いて、夜中でも外氣をとることの出来るやうに
- 1912年4月 59頁 中流の衣食住はかく改めたし 羽仁もと子  
晝は障子を開け拂って、室内に充分に光線を入れ一略一時々日當りのよい廊下に寢台を出して特に日光にあてることの出来るやうに、夜具や毛布はいくつでも、廊下の手すりに掛けて乾すことの出来る
- 1912年4月 114頁 家を建てる方の御参考（伊藤幸次郎氏のお宅） 記 者  
お客の多い家などでは、殊に應接間は椅子卓子に限る
- 1912年4月 114頁 家を建てる方の御参考（伊藤幸次郎氏のお宅） 記 者  
折々ある逗留客のため、又はゆっくりと話しに来て下さる來客のために、自分達の生活と離れた客間が欲しいので、この部屋を作りました
- 1912年4月 114頁 家を建てる方の御参考（伊藤幸次郎氏のお宅） 記 者  
應接間だけは折衷風
- 1912年6月 5頁 日光・空氣・食物 加藤 照磨  
獨り無病の子供の健康を増進することが出来るばかりでなく、結核その他の病氣に罹つてゐる子供でも、この日光浴を十分にすることによって、全治し得る場合が澤山あります。いろいろの黴菌は天日にあてると死んで仕舞ふ。日光は消極的の意味に於ては、大いなる消毒機關であります
- 1912年8月 105頁 便利なる洗濯場の設備 記者 齋藤春代  
光線は十分に取ることが肝要ですから、東向か南向にいたします
- 1912年8月 107頁 便利なる洗濯場の設備 記者 齋藤春代  
流しの据ゑてある方の壁には、丁度流しの上になる所に約一尺程硝子をはめて、光線を十分にとる様
- 1912年8月 107頁 便利なる洗濯場の設備 記者 齋藤春代  
東面は一略一硝子戸（上半分だけでも）の方が明るくてよい
- 1912年8月 107頁 便利なる洗濯場の設備 記者 齋藤春代  
二尺程硝子戸をはめて、洗濯する手許に十分に光線をとります
- 1912年9月 70頁 中流の洋風生活に要する家具 橋口 信助  
朝から晩まで椅子で通せるであらうか一何となく寛ぐことが出来ないで、宛（まるで）汽車にでも乗ったやうな（という議論があるが）實際住んで見れば窮屈なことは決してない



- 1913年 3 月 102頁 食事部屋を如何に設備すべきか 深見 久七  
西洋では食事と云へば、一家團欒して楽しみ、若くは懇意な客を招いて、面白く談笑すると云ふ  
機會でありますから、勢ひ、長い時間を要し一略一我國の食事と云へば談笑するより寧ろサッと  
食ってしまふ
- 1913年 3 月 105頁 食事部屋を如何に設備すべきか 深見 久七  
日本ではお客を通すには座敷と云ふのがあつて、其所で食事もすると云ふのであるから、食堂は  
先づ改まったお客を通さない所とし、専ら家族の食事する場所
- 1913年 3 月 108頁 臺所の天窓と戸障子 記 者  
お臺所の眞中丁度七輪臺と料理臺のある上の天井を、凡そ五尺四方位くり抜いて、其所だけズッ  
と屋根より高く突き出して、四方共ガラスで張つてあります。但し一方だけは下から引つ張つて  
ある細引の伸縮で、横に開けたり閉ぢたり出来るやうになつて居ります。つまり其所が風通しに  
なるのです。一略一餘程高くなつて居るのと、四方がガラス張りですから、屋根はあつても光線  
は充分に取れます。
- 1913年 3 月 108頁 臺所の天窓と戸障子 記 者  
臺所の天窓と戸障子
- 1913年 5 月 23頁 趣味の方面より見たる衣食住 岩村 透  
日本の家屋に洋服は如何にも不調和である。第一、靴は日本の道路に適當しない。少し雨が降れ  
ば泥海の様になる。天氣がよければ霜どけがする。この道路を歩いた靴で家へ入れたものでない。  
此の道路には下駄の方が遙かに適して居る
- 1913年 6 月 114頁 千圓で出来る丸木造りの別荘 橋口 信助  
客室は食堂を兼ね
- 1913年 8 月 120頁 西洋風にした書齋 深見 久七  
坐つて居ると萬事起居が億劫になつて來て、一寸した用を足すのにも人手を借りたくなり、向ふ  
の書架にある参考書が必要と思つても、つい起つのが面倒で見ずに済ますこともある。所謂横の  
ものを豎にするのも厭だと云ふのは、畢竟坐つて居ることの不都合な産物であります
- 1913年 8 月 122頁 西洋風にした書齋 深見 久七  
暖房設備と云ふことは、日本家屋に取りては未決の問題でありまして、今後大に研究を要す
- 1913年10月 161頁 簡単に出来る耐久耐震的建築法 松島 剛  
日本のやうな氣候の國柄では、純の西洋式はどうも結果が面白くない様に思ふ
- 1913年10月 161頁 簡単に出来る耐久耐震的建築法 松島 剛  
方角の如きも、東京邊では南北を開けるのをよいとする
- 1913年12月 115頁 日本の風土に適合せしめた洋風建築 小笹 三郎  
光線を多く取るには、出来るだけ澤山窓を開けるに限ります
- 1913年12月 115頁 日本の風土に適合せしめた洋風建築 小笹 三郎  
日本に建てる西洋館は、日本の氣候に合はせねばならず
- 1913年12月 116頁 日本の風土に適合せしめた洋風建築 小笹 三郎  
暖房の設備も、また至つて重寶なもので、出来るならば、これからの建築には欲しい
- 1914年 4 月 62頁 住みよき家の間取圖其三 記 者  
三疊づゝに仕切つて東南を食堂にしたら、この家は、子供の遊び場から専用の食事室まで出来



- 1914年4月 63頁 住みよき家の間取圖其三 記 者  
女中を置く場合には、茶の間に寝かさず、矢張玄關を女中部屋に直す方が、家族の生活から云つても、女中の都合から云つてもよいでせう
- 1914年4月 64頁 住みよき家の間取圖其四 読 者  
各室の交通を便利にしました
- 1914年4月 68頁 住みよき家の間取圖其六 記 者  
大いなる缺點は主婦と子供を、光線の上からも位置の上からも廣さの方からも大變悪く取扱つてゐる
- 1914年4月 69頁 住みよき家の間取圖其七 記 者  
居間の床を押入になほさなければ、入れ場所が少なくはないか
- 1914年4月 72頁 住みよき家の間取圖其九 記 者  
各室の獨立が不十分のやうです
- 1914年4月 72頁 住みよき家の間取圖其十 読 者  
老人の室を初め、光線の能くさしこむやうに
- 1914年4月 74頁 住みよき家の間取圖其十 記 者  
主婦部屋一略一は食事部屋にも用ゐ、赤坊のお晝寝もさせるといふのでは、あまりにゴタゴタします一略一三疊を食事部屋にします
- 1914年4月 75頁 住みよき家の間取圖其十一 読 者  
朝鮮は西の方角が塞がって居りますと、夏は非常に暑う御座います。南向西廊下にして置きますと、冬暖かく、夏は涼しい
- 1914年4月 79頁 住みよき家の間取圖其十四 読 者  
(玄關に卓子・椅子・ストーブなどを置いてホールとして活用している)
- 1914年4月 80頁 住みよき家の間取圖其十五 読 者  
日本間へ一々客を通す手数を省く為めに客間を西洋間に
- 1914年4月 81頁 住みよき家の間取圖其十五 記 者  
食事部屋のないのは不便です
- 1914年4月 85頁 住みよき家の間取圖其十八 読 者  
たまには粗飯なりとも主客共にしたいと存じ、食堂を座敷の次に取りました
- 1914年4月 85頁 住みよき家の間取圖其十八 読 者  
主婦の居間は十分廣く取り、成べくは此の室で幼児も遊ばせ、裁縫もし、また親しい客なれば此の室で濟ませたいと思ひます
- 1914年4月 88頁 年中四方に日光を受ける家 記者 山田菊水  
住宅として常住の家を建築するには、夏も涼しく冬も暖かく、且つ衛生にも適合した家をつくらねばなりません
- 1914年4月 88頁 年中四方に日光を受ける家 記者 山田菊水  
地方地方の風向を察し、風通しの如何にも意を用ひねばなりません
- 1914年4月 89頁 年中四方に日光を受ける家 記者 山田菊水  
家の方向を正南に向けずに、正南より少し東の方に向けるか、若しくは少し西の方に振る
- 1914年4月 93頁 年中四方に日光を受ける家 記者 山田菊水  
日光の直射と云ふことは衛生上好ましいこと



- 1914年4月 100頁 たった二室の西洋館 読 者  
 食堂と臺所が一所の様に見えるのが少し申分ですけれ共、一寸した屏風を立てるか、引幕でもかければ悪くは無からう
- 1914年4月 104頁 浅田氏のお臺所と戸棚 記 者  
 健康、堅牢、便利を主にした、子供本位の建物で御座います
- 1914年4月 106頁 浅田氏のお臺所と戸棚 記 者  
 日光を遺憾なく受けた明るいお家
- 1914年8月 94頁 一風変わった洋風建築 記 者  
 夫婦本位のこのお家は、一體に小じんまりと便利なのが際立った特色です
- 1915年2月 114頁 應接間の装飾 塚本 靖  
 窓は大きく取って、光線を充分に導き入れ
- 1915年2月 136頁 便利な臺所戸棚 記 者  
 風通しもよく、日光も受けられるやう、流しの前の窓を利用して
- 1915年3月 105頁 よく整った子供部屋と遊戯室 記 者  
 勉強室の次の四疊半は、南受けの日當りよく
- 1915年3月 106頁 考案して見た子供室 読 者  
 子供室は第一に日光のよく入る、明るい室が欲しい
- 1915年5月 40頁 翻訳子供本位の家庭と大人本位の家庭 記 者
- 1915年7月 97頁 湯殿洗面所の工夫 三等 読 者  
 日光が成るべく多く當るやうに、風呂場の東側を、開閉の出来る三枚建の硝子戸にしました
- 1915年8月 11頁 團欒の意識 三宅雄二郎
- 1916年6月 53頁 この頃の住宅及び今後の住宅 橋口 信助  
 近年中流以上の住宅では、たとひ一室でも卓子椅子のある西洋間が欲しいと云って、日本風の建築の一部を西洋間に造り、一層上流の住宅になると、日本建築に添へて一構への西洋館を建てる傾向があります。これ等は以前は一種の装飾的なものでありましたが、日露戦争前後から、男子の服装が洋服となつたため、今日では次第に実用的となり、便利上西洋間が要求さるゝようになって居ります
- 1916年6月 54頁 この頃の住宅及び今後の住宅 橋口 信助  
 (西洋間)今の所ではまだ應接間か書齋くらゐが西洋間になってゐますが、何れ食堂や臺所にも及ぶやうになりませう
- 1916年6月 54頁 この頃の住宅及び今後の住宅 橋口 新助  
 普通の住宅には縁側はあっても中廊下はなく、室が続き間になって居りました。然し室だけ幾つかを集めると、その中に必ず死んだ室が出来て、そこを通らねば他の室に行けないことになりま  
 すから、近來は住宅にも中廊下を取り、すべての室を獨立させるやうになりました。一家族一室に雑居した家族的の間取りが、漸く個人的になつたもので、同じ家族のものにも覗き込まれないやうにする傾きが見えます
- 1916年6月 55頁 この頃の住宅及び今後の住宅 橋口 信助  
 事務所と住宅と分離するにつれて、用事のある普通の客は事務所で間に合ひ、住宅には訪ねて來なくなる道理でありますから、従つて間取りの工合も従來と變り、専ら家族の住むのに便利なやうに設計されることになりませう。一略一間取りの工合も従つて家族を主とし、日當りの良い室



は家族團欒の所に充て、應接室は却って日蔭にとると云ふ風です

1916年 6月 110頁 簡易生活から割り出した住宅 記者 山田菊水  
椽側がないために掃除の手をはぶき

1916年 6月 110頁 簡易生活から割り出した住宅 記者 山田菊水  
雨戸は一枚もなく、全部硝子窓になっていますから、戸締まりが非常に簡単で、朝夕の手数を省くばかりでなく、何時でも手軽に外出が出来ます

1916年 6月 111頁 簡易住宅から割り出した住宅 記者 山田菊水  
八疊の居間は、南側が全部硝子窓になってゐて、椽側も雨戸也没有せん

1916年 6月 112頁 簡易生活から割り出した住宅 記者 山田菊水  
(臺所の板張り部分に折り疊み式の食卓を設置した例)

1916年 8月 24頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
儀式本位の家、家族本位の家—略—住宅も儀式のためよりも主として家族の住むに便利なやうに建てねばなりません。即ちこれからの住宅は儀式本位を去って家族本位にならねばならぬのであります。その結果は、從來客間に使った、日當りのよい展望のよい主なる部分を家族の住ひに充て—略—一家の生命の源たる大事な臺所を優遇して、光線や空氣を十分入れ、且つ便利に改良を加へ、湯殿や便所も一層注意を要することになります

1916年 8月 24頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
子供などは殆ど一定の部屋を与えられず、而も客間にでも來て飛びはねて遊んでは叱られると云うやうに

1916年 8月 25頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
子供部屋の如きも所謂第二の國民を健全にする意味から、成るべく良い位置を選び

1916年 8月 25頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
客間は第二の位置でよい

1916年 8月 26頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
各室の秘密を保ち得ること。殊に着がへその他のために、他から見透かされない隠れ場所が是非必要です

1916年 8月 27頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
從來は各室共多くは襖障子で仕切り、幾間も通して一つの大きな室として使へる様にしたもので、之は時に取って甚だ便利であるが、之に伴ふ不便もあります

1916年 8月 27頁 中流の住宅は如何に設計すべきか 伊東 忠太  
各種の部分を大體區劃することが必要で少くとも家族用の部分、客に使ふ部分及び臺所に關する三大部に分けて、これ等相互に入り交らないやうに

1916年 8月 96頁 椽側を広げて仕事部屋に 記 者  
臺所の壁を一尺に一尺五寸位くりぬいて、硝子戸をはめて全體の光線取をよくしてあつたのも、暗い貸家建の臺所をきもちよく使ふためには

1916年 8月 97頁 伊東工學博士の新築住宅 記 者  
食堂書齋及び應接室だけが和洋折衷（他は日本間）

1916年 8月 97頁 伊東工學博士の新築住宅 記 者  
應接室は一寸立話して済むお客に使ふ所で、一番陰氣な所



- 1916年 8 月 97頁 伊東工學博士の新築住宅 記 者  
博士の所謂家族本位主義から、南を受けた主要の部分を家族の使ふ部分に取り、客間は東向きの寧ろ第二位に取ってある所など、特に記者の注意を惹きました
- 1916年 8 月 98頁 伊東工學博士の新築住宅 記 者  
臺所は西南に面した景勝の地を占め、南と西と兩方から十分光線が入りますし、それに天井際に高く磨硝子小窓を取ってありますから、隅々まで遺憾なく光線が届きます。臺所を全部板敷にして、立ちながら仕事をするには、横から射す光線ばかりで上から光線が足りません。この小窓は即ちこの缺點を十分補って居ります
- 1917年 3 月 57頁 能率からみた東京の生活と地方の生活 宮田多賀子  
(田舎は)食後の無駄話が長いのです。何處の家でも御飯がすんでからお膳も下げないで、お湯を呑みながら長い間世間話をして居るのがおきまり一略一これだけでも無かったら一略一古い生活
- 1917年 3 月 107頁 便利と衛生を兼ねた山脇氏のお臺所 記 者  
深く掘り下げた食品貯蔵室で、殆ど冷蔵庫ほどに保存することが出来る
- 1917年 3 月 109頁 動作經濟の上から工夫した臺所 記者 山田菊水  
在來の腰障子では、光線が低く横に射して不都合ですから、特に料理臺の前に六尺の高窓を設け、磨硝子の障子を立てました。これだと奥の戸棚の隅まで光線が行き届いて
- 1917年 5 月 110頁 室内の換氣と採光 読 者  
北向の室は廊下の屋根に硝子を張り欄間も硝子張りにすると非常に明るくなります
- 1917年 5 月 110頁 室内の換氣と採光 読 者  
從來の日本室は換氣の方法が備はつてゐません一略一窓を附けると便利
- 1917年 5 月 111頁 室内の換氣と採光 読 者  
臺所は一番空氣の流通を良くしなければなりません。いろいろに窓を開けるのはこの必要から
- 1917年 5 月 111頁 室内の換氣と採光 読 者  
四方とも閉めきられた室は屋根を抜いて天井に硝子張りの明りとりを附けます。その四隅は金網を張って空氣をぬくやうにします
- 1917年 5 月 118頁 和洋の調和のよくとれた食堂と臺所 記 者  
御家族の居間、寢室は悉く二階で、全部東南をうけた、明るい日本室ばかりでした
- 1917年 6 月 102頁 廿八坪の地面へ便利で器用な家 読 者  
子供達の出入り毎に一々履物を片付けるやうなことは出来ませんし、呉服屋その他の商人の出入にも是非必要なのに、何處にもそれだけの餘地がありません。仕方がないので土間の右横に一略一土間と上り段を拵へました
- 1917年 6 月 105頁 廿八坪の地面へ便利で器用な家 読 者  
一室づつ獨立した二階、試験の時などに二人の兄弟がお互いに邪魔にならないやう、どちらへお友達が遊びに来てもし氣兼ねのないやうといふ考へから、二人の部屋をどちらも廊下から入れるやうにして夜具入も別々に付けました
- 1917年11月 129頁 趣味的に建てられた石井柏亭氏のお家 記 者  
窓、お縁側などの障子は、摺硝子に素通しをはめられた
- 1918年 7 月 68頁 住宅の換氣設備 佐野 利器  
家屋は換氣通風の外に同時に冬季に於いては暖房保温の必要があり、一方に暖めて一方に空氣を



換へると云ふ相反對した二つの事を繰返さねばならぬので、こゝに換氣設備の難問題が起る

1918年 8月 78頁 私共の寢室と湯殿

読 者

湯殿は地下室ですが、光線は巾四尺位で、高さ一間ほどの二つの窓から充分入ります

1918年 9月 22頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

玄関構へが他の部分に比して莊重に過ぎ、宛然城門のやうに感ぜられるのは四民平等の今日柄聊か時代に副はぬやうに見えますが、訪問時間に制限なく、未だ起きもやらぬ早朝から、食事中夜中の嫌ひなく、何時訪づれても無作法としない國では、晝夜緊張した氣分の玄関も亦必要

1918年 9月 22頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

從來の住宅一略一何所までも開放的で通風に申し分ない

1918年 9月 22頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

(掃除) 西洋風の家であれば、卓子の上だけ綺麗に拭いてあれば、床には少し位の埃があつても目立ちませんが、何にせよ疊の上に直に接坐りその上に手をつく以上は掃除を頻繁にし、何所までも清潔にせねばなりません。日本人の潔癖も恐らくこの邊の必要から來た習癖で、掃除のため朝夕に費やす手數と勞力とは實に大したもの

1918年 9月 22頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

家族の常住する居間は、割合に劣等な位置に取り展望日當り風通し、はては裝飾に至るまで客間に集中した我國の住宅は、見方によっては無駄なやうにも見えますが、事務所で用事を辯ずる西洋と異り、事務上の用談も吉凶の訪問も、共に住宅でする我國では、これも己むを得ない

1918年 9月 22頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

床の間が無駄だと云つても、これが無ければ兵營か寄宿舍のやうで、座敷に品位と寛ぎがありません

1918年 9月 22頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

縁側が掃除に厄介だと云つても、開放的な日本家屋にはこれなしではしづきが凌げますまい

1918年 9月 23頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

疊を廢するには先づ服裝から改めねばならず、服裝を改めるには、疊があつては改まりません。今は正に此進退兩難の境にある譯で、僅かに官署學校事務所等が疊に代へるに椅子を以てした結果この生活は殆ど全部洋服となりましたがその代り家庭では疊に支配せられて、和服を強ひられ、こゝに生活が重複して、二重の被服費を要することになって居ります

1918年 9月 23頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

今一つ坐ると云ふことのために、起居の動作に無用な勞力を消耗することです

1918年 9月 24頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

朝夕の蒲團の上げ下ろしもまた、我住宅の無駄な手數ですし而かも多くは特別に寢室のないため、何を措いても先づ床を上げ、そこを一通り掃除してからでないと、晝の生活に移れません。このために失ふ時間と勞力是一通りのものでないばかりか、これがあるために三尺の押入が必要になつて、肝腎の住ひを狭くして居ります

1918年 9月 24頁 無駄のない住居

記者 山田菊水

通風のためには壁の上下に通風孔排氣孔を設ければ、室内の温度のために獨りでに盛に換氣が行はれ、煖房も小さなストーヴか行火で十分暖まりませう

1918年 9月 88頁 明るくて氣持ちよい臺所

記 者

東と西との殆ど全體から日光が入るやうに窓をつけた。二間に二間半の明るいお臺所一略一東向



きと云っても餘程南に寄ってゐる故か、軟かい日光は入っても、夏のいらつくやうに強い西日はあたらぬ

1919年1月 77頁 働きよいお臺所 記 者

全部磨き硝子の窓なので、普通の硝子窓から来るよりも白い明るい光線

1919年3月 グラビア 明るい子供部屋 記 者

二間続きのお部屋で、一方は坐られるやうに、一方は腰掛けられるやうになつて

1919年3月 頁 明るい子供室 記 者

(子供室) 思ひきつて明るい廣い二間続きのお部屋

1919年5月 28頁 住宅新築の参考 内容を主とした西洋館 読 者

朝晩の雨戸の開閉にも閉口

1919年5月 28頁 住宅新築の参考 内容を主とした西洋館 読 者

襖一重で仕切った書齋には、子供が侵入し切りで、落ち落ち讀書も出来ません

1919年5月 28頁 住宅新築の参考 内容を主とした西洋館 読 者

雨戸や襖障子を使はずに

1919年5月 30頁 住宅新築の参考 衛生的の臺所と玄關 読 者

南側の兩角をとって六角形の臺所としましたので、南の日を受ける部分多く、且つ狭い距離に廣い道具立が出来て、動作經濟からも有利になって居ります

1919年5月 31頁 住宅新築の参考 衛生的の臺所と玄關 読 者

窓は硝子戸の観音開き

1919年5月 32頁 住宅新築の参考 居ながら家中を見通す家 読 者

主婦は自分の居間から、居ながら家中を監督

1919年5月 34頁 廊下押入風呂場の新工夫 野口 保興

在来の建て方では五間あるとか六間あるとか云つても、それがそれぞれ獨立してゐないのでですから、つまり二間とか三間とかの能率だけしかないことになります

1919年5月 34頁 廊下押入風呂場の新工夫 野口 保興

各室が獨立してゐても、その連絡がよく出来てゐなければ、大層不便

1919年5月 35頁 廊下押入風呂場の新工夫 野口 保興

上はガラス戸、下は無雙窓にでもすると、外氣の調節にも、用心の上にも、便利で安全なものになります

1919年5月 47頁 家族本位の住宅 毛利彦十郎氏のお宅 記 者

全體が家族的、子供本位といふやうに建てられてゐます

1919年5月 48頁 家族本位の住宅 毛利彦十郎氏のお宅 記 者

西洋室はこの應接間だけで、他は全部日本間

1919年5月 48頁 家族本位の住宅 毛利彦十郎氏のお宅 記 者

中廊下は毎日の拭掃除の手數を省くためと、お客様を大勢お招きする時の都合を考へて、全部疊敷きにしてある

1919年5月 48頁 家族本位の住宅 毛利彦十郎氏のお宅 記 者

家の中のどの室にも部屋を横切らないで行かれるやうに中廊下を通してあります

1920年4月 62頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

一の住宅内に、腰かける室もあれば坐る室もあることは、二重生活の禍を胎すもので、將來は必



ず統一されねばならぬことです

1920年4月 63頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

應接間 簡易に接見 腰をかける

1920年4月 63頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

書齋と子供の勉強部屋 椅子テーブルが起居に都合よく萬事億劫にならぬ

1920年4月 63頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

臺所 立って働く

1920年4月 63頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

他の室が椅子テーブルとし、寢台食卓に改めるのが當然だとすれば、居間と客間も共に腰掛式に改めることも、左まで困難なことではありますまい

1920年4月 63頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

歩む面と同じ位置に寝ることは、頗る非衛生のことですから、寢台を奨励しなければなりません

1920年4月 64頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

また錠して安全に外出の出来る、徹底した簡易生活をすることは、現在の形式では不可能です

1920年4月 65頁 今後の住宅は何うなるか 大熊 喜邦

また昔の住宅には、暖房と云ふ考は更になく、防衛も餘り念頭に置かれてありません。これは武家が當時の生活を代表し、その住宅が當時の住宅形式を支配して居ったためで、武家の生活としては、座敷を暖めることや盜難を恐れては、餘り柔弱と考へられた為めです。この暖房と防衛の目的を達するには、何うしてもそれに適すべく發達した、壁と窓との形式によるが合理的ではありませんまいか

1921年2月 124頁 十五坪半の小洋館 村山 元子

静かな勉強部屋を得んがため、又病身の次男の健康のため、長男の設計で郊外にカッテエジを建てることにしました。全く疊なしではと皆が心配しましたが、試みのためすべて板敷にきめました

1921年4月 27頁 實生活に即した庭園 田村 剛

今日以後の庭園は民衆本位であり、家族本位であって、日常生活と切實に關聯したものでなくてはならぬ

1921年4月 32頁 何んな住宅が欲しいか 冬は暖かで夏涼しい家 醫學士竹朗生

日光の醫治衛生上重要なことは、今更云ふまでもありません

1921年4月 37頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者

主眼とする所は簡易生活で、建坪の少ない、掃除の楽な、能率本位のもの

1921年4月 37頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者

雨戸の開閉、障子の塵、縁側の拭掃除など、朝夕の手数を省き

1921年4月 37頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者

外圍は総て窓壁主義として、戸締の簡易と堅固を期し、通風採光に注意し

1921年4月 37頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者

坐臥出入に利便で、輕快素朴且つ實用的のものを目標とし、半洋式のものとしました

1921年4月 37頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者

客間 純洋式で主人室と書齋を兼ね

1921年4月 37頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者

家族本位の無駄のない簡易住宅



- 1921年4月 38頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者  
茶の間 主に食堂として使ひます。差當り疊敷にしましたが、やがて西洋式に改めるつもりです
- 1921年4月 38頁 何んな住宅が欲しいか 家族本位の簡易住宅 読 者  
居間 六疊で主婦室を兼ね一略一この室のみは家人の希望により純日本式とし
- 1921年4月 38頁 何んな住宅が欲しいか 小ぢんまりと片づいた家 読 者  
玄關は各室への通路に一疊だけにして
- 1921年4月 39頁 何んな住宅が欲しいか バンガロウ式の住宅 読 者  
在來の日本住宅では一略一玄關や客室に金をかけ、且つ家としての最良位置を占めさせる一略一これらの缺點を除くには、何うしても根本的に改革して、西洋式を取り入れる方がよい
- 1921年4月 39頁 何んな住宅が欲しいか バンガロウ式の住宅 読 者  
在來の日本住宅では一略一縁側や廊下などの不經濟な場所が多く、且つ間取りが散漫で、家全體がキッチンと一の組織をなして居ない一略一これらの缺點を除くには、何うしても根本的に改革して、西洋式を取り入れる方がよい
- 1921年4月 39頁 何んな住宅が欲しいか バンガロウ式の住宅 読 者  
在來の日本住宅では一略一縁側、従って障子が多いために、室内が散漫になり、雨戸のために用心が悪く、少家族では外出に不便なこと、延いては市場が發達せず、召使を要する一略一これらの缺點を除くには、何うしても根本的に改革して、西洋式を取り入れる方がよい
- 1921年4月 40頁 何んな住宅が欲しいか バンガロウ式の住宅 読 者  
居間 十疊の板張りとし、椅子卓子を用ひ、食堂兼居間に用ひ、お客様もこゝで應接します。用談は兎も角、普通の社交的の接客は、餘り四角張らないやうにしたい
- 1921年4月 41頁 何んな住宅が欲しいか バンガロウ式の住宅 読 者  
寢室 現在の私達の生活としては疊敷が良い
- 1921年4月 44頁 何んな住宅が欲しいか お客に偏した家 読 者  
玄關のたたきは客人のみの昇降に用ひ、家人は別の上り口をつけたき事
- 1921年4月 44頁 何んな住宅が欲しいか お客に偏した家 読 者  
各室とも日當りよく、風通しの宜しき事
- 1921年4月 45頁 何んな住宅が欲しいか お客に偏した家 読 者  
縁側は朝夕の拭掃除の手數を省くため、成るべくつけぬ
- 1921年4月 45頁 何んな住宅が欲しいか お客に偏した家 読 者  
吉凶の折、多勢の客などの場合に、二間を通して大きな一室となすため、客室と他の一室は、襖一重にて相隣れる事
- 1921年4月 45頁 何んな住宅が欲しいか お客に偏した家 記 者  
評は標題で澤山でせう
- 1921年4月 45頁 何んな住宅が欲しいか 文化的住宅 読 者  
先づ洋風でなければなりません。一略一衛生的なことで疊の埃から逃れることが出来ます
- 1921年4月 45頁 何んな住宅が欲しいか 文化的住宅 読 者  
先づ洋風でなければなりません。一略一ほんとうの簡易生活は、この洋風生活によってのみ與へられることです。即ち起居ふるまひの自由に快活であり得ること、掃除の簡単に清潔になし得ること、及び臺所の氣持ちよさと、簡單自由であることです



- 1921年4月 46頁 何んな住宅が欲しいか 文化的住宅 読者  
 日當りを特に注意したもので、冬は暖かく夏は涼しいつもりです。殊にこれまで虐待された子供室は、南向きの暖かな所に取り
- 1921年4月 47頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 坐ることによって私達の生活は、どんなに不活發にされ、不健康にされて居るか知れません。私たちの何より急を要する改造は、坐ることを止めて椅子テーブルの生活にすることです
- 1921年4月 47頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 一生に二三度あるかなしの、冠婚葬祭の準備として、不用な間の幾つかをおくと云ふことは、甚だしい不經濟です
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 出入の扉には錠前を附し、窓や玄關にも堅い締をして、留守居なくして外出の出来るやうにしたい
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 踏む所がその儘寢床になると云ふことは、考へるまでもなく嫌なこと
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 あの夥しい塵のたまる疊は、我慢が出来ません
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 様式は洋風としたいと思ひます
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 いつも洪水のように日光の導入をはかりたい
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 これまで虐待された臺所も良い位置に取りたい
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 出来るだけ小さな家 読者  
 偶に來る客のため日あたりのよい室を用意するのは間違つて居ますから、それを家族の居間にして、玄關を少し廣く取り、椅子テーブルを据ゑて、そこで客に應接したらよいでせう
- 1921年4月 48頁 何んな住宅が欲しいか 翻訳された家 読者  
 家族本位に
- 1921年4月 49頁 何んな住宅が欲しいか 翻訳された家 読者  
 (臺所) 明るい位置を選びます
- 1921年4月 51頁 何んな住宅が欲しいか 子供部屋を兼ねた主婦の部屋 読者  
 南側全部硝子窓とし、高さは出窓と同じ高さに
- 1921年5月 60頁 何んな住宅が欲しいか二 私の望んで居る住宅 読者  
 窓は全部西洋風の兩開きとし、鎧戸で締まりをいたします
- 1921年5月 60頁 何んな住宅が欲しいか二 私の望んで居る住宅 読者  
 住宅を椅子式にすれば、直に衣服の不自由を感じませうが、衣服と住居と同時に改善することが出来ないとなれば、勢ひ手早く思ひ付いたものから取りかかることにせねば、兎や角考へて居るうちに時は経ってしまひます。たとへ洋服に下駄ばきのぶさいくな格好でも、幾月幾年の後には自然に調つて來ませう。この考へから大部分を椅子式にしました
- 1921年5月 60頁 何んな住宅が欲しいか二 私の望んで居る住宅 読者  
 これからの住宅には、特に良い位置に客間を取る必要はありますまいから、お客は書齋に通すつもりです



- 1921年5月 60頁 何んな住宅が欲しいか二 私の望んで居る住宅 読 者  
 寢室兼病室は、いろいろの都合から日本室にしました
- 1921年5月 61頁 何んな住宅が欲しいか二 私の望んで居る住宅 読 者  
 食堂は主婦の部屋を兼ね、家族の娯楽の場所にもなります
- 1921年5月 62頁 何んな住宅が欲しいか二 私の望んで居る住宅 読 者  
 光線は磨硝子の窓をつけて取りませう
- 1921年5月 62頁 何んな住宅が欲しいか二 米國で建てる積りの家 読 者  
 私共はどこまでも家族本位で、また私共自身本位の家を建てるつもりです。一略一親の氣に入つた家は必ずしも子に適すると限らず、子の代に都合のよい家でも、孫の代には勝手の悪いことがある筈です
- 1921年5月 62頁 何んな住宅が欲しいか二 米國で建てる積りの家 読 者  
 (日本に建てるなら) 客用寢室兼病室を疊敷きに
- 1921年5月 62頁 何んな住宅が欲しいか二 米國で建てる積りの家 読 者  
 老人室だけ疊敷
- 1921年5月 64頁 何んな住宅が欲しいか二 夫婦共用の書齋 読 者  
 住宅に對する希望は一略一用心のよき事
- 1921年5月 64頁 何んな住宅が欲しいか二 夫婦共用の書齋 読 者  
 居間は客室と書齋とを兼ねた廣い室としたいと思ひます。これは一は經濟上の理由もありますが、一は來客を家族的に親しく歓待したいからです
- 1921年5月 64頁 何んな住宅が欲しいか二 洋風客間の趣向 読 者  
 居間兼客間は住宅氣分のあふれた、真に楽しい自由な暖かい部屋を作りたい
- 1921年5月 65頁 何んな住宅が欲しいか二 洋風客間の趣向 読 者  
 客間居間のは安樂椅子や肘掛椅子等は材料色彩に變化のある方が面白いものです一略一西洋室は窮屈だと云はれる方がありますが、それは家具の設備の悪いためで、通常市中に賣って居る事務用の椅子より幾らか低い椅子にして、いろいろ取まぜておけば、氣持ちよく住める
- 1922年2月 124頁 たった千圓の家 読 者  
 客間一つをストーブで温めれば殆ど家中が温まります
- 1922年8月 23頁 住宅建築に現れたる時代の姿 佐藤 功一  
 今の時代相は益々進んで洋風に近づかうとして居るのですから、これに適する最も合理的な住宅を得ようとする事の近道は、直ちに純粹の洋風住宅を採用するにある事です
- 1922年8月 25頁 住宅建築に現れたる時代の姿 佐藤 功一  
 家の中に於て比較的公の用途に充てられる可き室、即ち應接間とか客間とかいふやうなものを椅子式に改める
- 1922年9月 82頁 私の住む村の住宅 読 者  
 出居即ち客間は折角南の日を受けるやうに作られてありながら、平常は使用されない
- 1922年9月 117頁 私たちの生活に洋服を取り入れて 読 者  
 よそのお宅に上って長座しました時など、立ちましてからの皺が氣になります。一略一近頃はたまりかねて、長座しさうな時は和服を着るやうになりました。凡ての家がテーブル椅子にならない限り、二重生活はまぬがれないと申して居ります



- 1922年10月 92頁 電氣の家 記 者  
木に竹を接いだやうな折衷式を排し、思ひ切つて西洋風に設計されてあること
- 1922年10月 96頁 電氣の家 記 者  
南向きの食堂には前の方に入込みがあつて、兩側に廣いシートを取りつけ、デザートが済んだ後の、楽しい團欒の場所となる
- 1922年10月 96頁 電氣の家 記 者  
(臺所) 南の窓際に
- 1922年11月 96頁 理想と實際の小住宅 私の頭に熟した理想の家 読 者  
東と北に窓をつくり、東は大きくあけ、北は夏明け放って、食堂の南の窓からの風を吹き通しにします。日光のことはかり考へて、東南の一方口の室が、夏非常に暑いと云ふ経験から是非斯うしたい
- 1922年11月 96頁 理想と實際の小住宅 私の頭に熟した理想の家 読 者  
(食堂) 家族團欒室を兼ねたい一略一夕食後や日曜など皆が楽しく談笑する、一番楽しい部屋として
- 1922年11月 96頁 理想と實際の小住宅 私の頭に熟した理想の家 読 者  
(台所) 南に高い大きな窓を取って光線を十分に入れ、東はポーチ、東南隅にはサンルームを
- 1922年11月 97頁 理想と實際の小住宅 私の頭に熟した理想の家 読 者  
臺所 南向きの大きな窓を持った、衛生的の小ぢんまりした立働きよい室
- 1922年11月 98頁 理想と實際の小住宅 私の頭に熟した理想の家 読 者  
寢室 東の窓の所へベッドをおいて、十分朝日を入れ
- 1922年11月 98頁 理想と實際の小住宅 私の設計しつつある一間の家 読 者  
夫婦暮らしの上に用聞を入れませんため、一寸の買物にも無用心で、何うしても日本風では戸締りが不便です
- 1922年11月 98頁 理想と實際の小住宅 私の設計しつつある一間の家 読 者  
前後二回海外に生活致しました主人はやはり西洋風がよいと申しますので
- 1922年11月 100頁 理想と實際の小住宅 狭い臺所と別荘案 読 者  
寢室と食堂には是非朝日を欲しいと思ひ、それを工夫
- 1922年11月 101頁 理想と實際の小住宅 小さく工夫した家 読 者  
窓は出来るだけ大きく明け、十分空氣の流通を
- 1922年11月 101頁 理想と實際の小住宅 惣本家としての隠宅 読 者  
グリーンルームは、父の手植の鉢などならべ、日のあたるやう周囲は全部硝子張り
- 1922年11月 102頁 理想と實際の小住宅 惣本家としての隠宅 読 者  
ボイラールームは風呂場の下に、一坪の地下室に取り、各室に湯を送って煖房といたします
- 1922年11月 102頁 理想と實際の小住宅 小さな折衷式の家 読 者  
少なくとも晝の生活は椅子テーブル本位としたい
- 1922年11月 102頁 理想と實際の小住宅 小さな折衷式の家 読 者  
外觀を洋風にするのは、敷地に相當ゆとりがない限り、周囲の家との調和上差控へたがよい
- 1922年11月 103頁 理想と實際の小住宅 小さな折衷式の家 読 者  
眞に東西を融合した様式が現はれるには、尚ほ餘程の年月を要する



- 1922年11月 104頁 理想と實際の小住宅 洋風に改造した借家の四疊半 読 者  
生活改善の聲に、切りに洋風の室が欲しくなりましたが、洋服細民の悲しさは、人様のやうな家は出来ず、せめて一室だけでも腰掛け式の生活がしたうになりました
- 1922年11月 106頁 理想と實際の小住宅 衛生を主とした私の小住宅 読 者  
衛生本位の家を建てゝみたい
- 1922年11月 107頁 理想と實際の小住宅 簡易生活から出發した一間の家 読 者  
簡単な戸締りで何時でも外出の出来る
- 1922年11月 107頁 理想と實際の小住宅 簡易生活から出發した一間の家 読 者  
郊外の夫婦きりの住宅として、最も簡易な生活のために、出来るだけ小さい便利な氣持のよい
- 1922年11月 108頁 理想と實際の小住宅 理想の生活の出来る住宅 読 者  
居間に入ります。お客様は家人と共にくつろいだ心でお話していただくことにしませう
- 1922年11月 108頁 理想と實際の小住宅 理想の生活の出来る住宅 読 者  
食堂はカーテンをおろして、まさかの時に居間との境を作ることが出来るやうにしませう
- 1922年11月 108頁 理想と實際の小住宅 低利資金で建てる家 読 者  
光線と通風に留意
- 1922年11月 108頁 理想と實際の小住宅 低利資金で建てる家 読 者  
階段は玄関と臺所と兩方から昇降が出来るやうにし、一略一部屋部屋を獨立させるため、中央にも廊下を取りました
- 1922年11月 109頁 理想と實際の小住宅 紙に書いた家 読 者  
玄関 窓は全部硝子にして、温室造りに
- 1922年11月 109頁 理想と實際の小住宅 紙に書いた家 読 者  
疊を廢して椅子と卓子にした家
- 1922年11月 109頁 理想と實際の小住宅 紙に書いた家 読 者  
一々締りをつけて
- 1922年11月 109頁 理想と實際の小住宅 紙に書いた家 読 者  
窓は出来るだけ廣くって洪水のやふに日光を導きます。云ふまでもなく硝子ですが、たゞ一様の硝子でなく、曇硝子や花硝子を使いませう
- 1922年11月 109頁 理想と實際の小住宅 紙に書いた家 読 者  
雨戸も縁側もない家
- 1922年11月 109頁 理想と實際の小住宅 紙に書いた家 読 者  
掃除の手輕に出来ること
- 1922年11月 110頁 理想と實際の小住宅 ベランダ式應接間 読 者  
暑さの頃にはそよそよと涼しい風を、絶えず通したい
- 1922年11月 110頁 理想と實際の小住宅 私共の小天地 読 者  
冬の寒い時はこゝに毛布を敷いて、ガラスを透して来る光りを十分入れたら嘸ぞ暖いだらう
- 1922年11月 110頁 理想と實際の小住宅 私共の小天地 読 者  
ベランダ式應接室 掃除の手數をはぶくため、今までの縁側と云ふものをすつかり取ってしまつて、その代わりにベランダ風の場所をつくりました
- 1922年11月 112頁 日本家を洋館に改造して 読 者  
手のかゝる不便な日本家、朝夕の戸の開閉を無くしたいこと、床の上げ下ろしをやめたいこと、



- 雑布がけを廢したいこと、戸外からも鍵で開閉の出来るやうにし度いこと
- 1922年11月 113頁 日本家を洋館に改造して 読 者  
 (泊まり客、女中室を除いて) 全部疊を廢した
- 1922年11月 114頁 日本家を洋館に改造して 読 者  
 床の違い棚の上下へ一段づゝ棚を入れて本棚に
- 1923年 3 月 95頁 住宅建築問答 小住宅の建築費 読 者  
 建坪を少なくして二階建ての方が安く出来ませうか。老人子供の為には平家の方が便利とは思ひます
- 1923年 3 月 95頁 住宅建築問答 小住宅の建築費 読 者  
 掃除や毎日の雨戸の開閉や留守番にも困るので、なるだけ手数を省き安心して留守の出来る簡易な生活
- 1923年 3 月 95頁 住宅建築問答 小住宅の建築費 の答  
 郊外の住宅ならば平屋建ての方がよい
- 1923年 3 月 95頁 住宅建築問答 小住宅の建築費 の答  
 家は日々の生活のためにたてるもので何年かに一度位の葬式のためにたてるものではないのですから
- 1923年 4 月 93頁 住宅建築問答 床を發するに就て 読 者  
 いろいろな點から日本座敷の床は不便があるので發したい
- 1923年 5 月 40頁 洋式生活に日本家屋を適應させて ミセス・ジュリエット  
 日本の人々がだんだんに西洋の生活様式を採用するやうになって來ました。其の理由は私が屢々聞く處によりますと、その方が一層便利であり住み心地がよいといふのでございます
- 1923年 5 月 47頁 住宅の衛生 阿部 博  
 日本の家屋は通氣し易い障子と云ふものを多く用ゐて居て、天井は竿縁天井が多く、床板と云つても隙間が多く、疊も充分空氣を通すし、それに少し立派な建物になると欄間を作つて隣りの間とも自由に空氣の交通が出来る様にしてゐて、換氣と云ふ點には割合心配は要らない
- 1923年 5 月 94頁 住宅建築問答 小さな西洋館 読 者  
 差當り老人や女中などが不便であらうと思ひ、老人室、女中室と二階の予備室とを疊敷にしたい
- 1923年 7 月 107頁 住宅建築問答 衛生的な住宅 読 者  
 日當りのよい、衛生上にも立働くにも都合よく
- 1923年 7 月 107頁 住宅建築問答 衛生的な住宅 読 者  
 家族の團樂も楽しく出来、御客様にも心持よくいたしたいといろいろ設計をいたしてみました
- 1923年 7 月 108頁 住宅建築問答 衛生的な住宅 の答  
 化粧室は大不暗いやうです。之ではお化粧が出来にくいでせう。なるだけ窓を多くして、明るくする事と空氣の流通をよくする事は大切
- 1923年 7 月 109頁 住宅建築問答 雪國の住宅建築 の答  
 最も多く使はるべき其茶の間が南からの光線を充分にうけ得ないと云ふ事も、おいしい
- 1923年 8 月 113頁 わたくしどもの家 読者 武井千代  
 どこへでも他の室を通らずに行けるやうに
- 1923年 8 月 115頁 わたくしどもの家 読者 武井千代  
 洗濯場 東に大きな窓をとり、明るいところで立ったまゝ仕事出来るやうに



- 1923年 8 月 115頁 わたくしどもの家 読者 武井千代  
 家族生活の快適といふことと、日常の家事の便利といふことを主眼として
- 1923年 8 月 118頁 住宅建築問答 郊外の田園住宅 読 者  
 子供の出入りは全部臺所の方の入口よりして、客間の玄關はよごさぬやうにしたい
- 1923年 8 月 119頁 住宅建築問答 郊外の田園住宅 の答  
 客間であると共に多分御主人夫婦の寢室にも使われる
- 1923年11月 165頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 衛生と便利を主として出来るだけ狭くし、家族本位に建てたいと存じます
- 1923年11月 165頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 居間と茶の間は疊敷
- 1923年11月 165頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 子供室と客室は椅子式
- 1923年11月 165頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 子供室はコルク張り
- 1923年11月 165頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 どの室も風通しのよいこと、どの室も明るいこと、どの室にも日光が直射すること
- 1923年11月 167頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 茶の間は主婦の仕事室を兼ね、こゝで仕事をしながら子供の世話をする
- 1923年11月 167頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 読 者  
 (台所) 南の窓は全部硝子戸、西は板戸にして必要に応じて取り外して西日を入れる
- 1923年11月 167頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 の答  
 居間や書齋(主人の居間)が、北向きになって居るのは少々不都合ではありますまいか
- 1923年11月 167頁 住宅建築問答 家族本位の住宅 の答  
 玄關の下駄箱兼花臺と、向ふから家人の出入り口を分けてある
- 1924年 3 月 91頁 子供室とその設備 木檜 恕一  
 子供室 東南と西南の中央に六尺と三尺の窓をとり、通風と日光の射入を十分に
- 1924年 5 月 附録29頁 住宅小品15種 屋根の見えぬ家 稲田男爵の家 遠藤 新  
 食堂兼居間を中心にして時々滞京の御老父と大學の弟との二部屋が西へのびて獨立の生活が出来  
 る様になって居る
- 1924年 6 月 102頁 小住宅の間取と寢室の新しい設備 木檜 恕一  
 夫婦と子供二人の生活で、女中もなく全く家族本位として考案したものです
- 1924年 6 月 102頁 小住宅の間取と寢室の新しい設備 木檜 恕一  
 中流以下の家庭ではこの寢室を獨立して設けることが種々の點から困難であります。五間や六間  
 の家でも、居間や客間を亦寢室と兼ねさせねばならぬ状態です。況や下流の生活に於いては、  
 居間も食事室も寢室も悉同室で、時には子供室や老人室をもまた兼ねさせねばならぬものもあり  
 ます。一略一椅子式にすれば、座式に比較して間數がふえる、家具が多くなる一略一然らばこの  
 點を如何に解決するか一略一各室の用途を餘り厳格に定めぬ筆法一略一食事室を居間に兼ねさせ  
 たり、居間と客間を共通する計りでなく、寢室を居間又は食事室に兼ねさせ、子供の寢室をその  
 勉強室と共通にする



- 1924年6月 104頁 小住宅の間取りと寝室の新しい設備 木檜 恕一  
 食事室—この一室は家族全部の集合する室である。食後家族相集まつて互に楽しむには至極適當の場所である。従って、家族團樂を目的とする居間をこれに兼ねしむるは最も合理的
- 1924年9月 65頁 夏涼しい家 佐藤 功一  
 夏 家が涼しくあるための條件 風通しを良くする事
- 1924年9月 66頁 夏涼しい家 佐藤 功一  
 西洋の家の多くは周囲も日本流にあけはなしになつて居らぬと同時に、所謂プライバシーの爲めに室と室との間、或ひは又室と廊下との間等には巾三尺位な戸を設けるだけで、小窓一つすら設けないのである。然し日本に於ては部屋と部屋との間、部屋と廊下との間は、大抵西洋人の「横にすべる紙の壁」といふ襖で自由に開けることが出来る様になつて居るのであるが、これも亦一面確かに風通しをよくするために暑さに起因するものと見て差支ない。一略一吾々が西洋風の家を造ると云ふ必要の一つはプライバシーを保つことにあるのだから、戸をあけひろげておかねばならぬやうでは部屋が見え透いて困る
- 1924年11月 92頁 經濟的に考案した新しい住宅設備 木檜 恕一  
 我が國在來の住宅では、欧米の住宅に見るやうに各室の職能が判然としてをらず、その称呼も區々であり、従って使用上の不便も尠くありません。故に我が國の住宅建築に於ては、各室を獨立させることが、その改良の主眼點でなければなりません
- 1924年11月 96頁 經濟的に考案した新しい住宅設備 木檜 恕一  
 食事室は、家族が集合して愉快に食事する所である。そしてこの目的が家族の團樂にある以上は、これを居間と兼用することも強ち不合理ではない
- 1924年11月 97頁 兄弟五人の子供室 読 者  
 日光浴が出来るように周囲をすつかりガラスに
- 1924年11月 97頁 兄弟五人の子供室 記 者  
 (子供室) 東西南の三方から日光をとり入れるやうに
- 1924年11月 98頁 兄弟五人の子供室 読 者  
 まだ私達は全部洋式には出来ません。それにベッドですとかたづけられませんから、割合室を経済に用ふことが出来ません
- 1924年12月 101頁 十三坪半で浴室まである美しい家 記 者  
 臺所には北と西に窓があつて明るい
- 1924年12月 101頁 十三坪半で浴室まである美しい家 記 者  
 應接間には東窓、食堂には北窓、寝室には南窓と區別されてゐます。さうして區別された光線の具合で、應接間は落付いた感じ、食堂は晝室のやうに澄んだ明るさ、寝室は温い感じというやうに、たった十坪足らずの中にある三つの部屋に單調でない感じを與へてくれるわけではないかと思ひます
- 1924年12月 106頁 貸家の理想と非難 読 者  
 赴任につけ込む法外な家賃を取締まる法はないでせうか  
 來客本位の勝手の悪い家
- 1924年12月 107頁 貸家の理想と非難 読 者  
 これ位の理想は家主も心得てほしいと思ひます  
 風通しのよい家。(この前、日當りもよく見かけのいい家だと思つて入りましたところ朝から晩



まで日が當りすぎて、家の向きが悪かつたせいか風が少しも通らないで、一夏焦熱地獄の思ひで苦しめられたこともありました)

1924年12月 107頁 貸家の理想と非難 読 者

これ位の理想は家主も心得てほしいと思ひます

日當りのよい明るい家。(雨ふりなどには暗くて晝間使へない部屋では困ります)

1924年12月 108頁 貸家の理想と非難 読 者

これ位の理想は家主も心得てほしいと思ひます

家人の部屋を通らないでも客間に行ける家

1924年12月 108頁 貸家の理想と非難 読 者

これ位の理想は家主も心得てほしいと思ひます

家は家族全體の家でなければなりません。主人のためにも、主婦のためにも、又子供のためにも、都合よく出来てゐなければなりません

1925年1月 33頁 新年を期して實行したいとおもふ 読 者

衣食住の改革その他 住宅が當面の問題

他家を訪問して一番困るのは、ズボンの膝を折つて座布団に坐らせられることだと申します

1925年1月 138頁 農家をそのまゝ利用した洋風の文化住宅 記 者

一方は應接間へ、一方は子供部屋へ、一方は臺所へ

1925年1月 140頁 農家をそのまゝ利用した洋風の文化住宅 記 者

南と東に廣い窓がある子供部屋は、この上なく明るい温かな部屋

1925年1月 142頁 狭い建坪を上手に工夫した家 読 者

居間を椅子式にして、そこに住居の殆ど大部分—應接間、食堂、書齋—を背負はせて見ました

1925年1月 142頁 狭い建坪を上手に工夫した家 記者 大塚民子

家族本位の簡易なお家

1925年2月 118頁 應接間はゴチック式、食堂は純アメリカ式、 記 者

二階はオランダ式の家

食堂から東に向かつて横一間縦三間半の突出したガラス戸六枚の窓から充分な日光を入れるベランダがあります

1925年4月 163頁 家賃の安い家 記 者

椽側は全部ガラス戸あり

1925年8月 113頁 十二坪の住宅 浪川岩次郎

疊の部屋はありません。其の餘裕もありませんでしたし、無くても別に不便を感じません

1925年8月 113頁 十二坪の住宅 浪川岩次郎

(玄關) 内側にナイトラッチを付け、外出の時は其の鍵一本さへもつて出ればいゝのですから簡単です

1925年8月 113頁 十二坪の住宅 浪川岩次郎

(居間) 食堂を兼ねてゐます

1925年8月 114頁 十二坪の住宅 浪川岩次郎

寢台使用は一番有効な蚤撃退法です

1925年8月 114頁 十二坪の住宅 浪川岩次郎

冬期一隅にストーブを据えるやうにしておきました。そして、各部屋との間を開け放つと、家全



體が小さいものですから、すぐ凡ての部屋が暖かになります

1925年 8 月 115頁 十二坪の住宅

浪川岩次郎

(寢室) 戸には一々錠が下りるやうにして、隣の部屋まで泥棒がはいつて來ても、寢室へは來られないやうに、しなければなりません

1925年11月 118頁 開放した茶の間の一例

今 和次郎

玄關の出っ張った兩側は一略一南の日を受けるやうになってゐる

1925年12月 103頁 六疊と三疊の家から

読 者

私達の望みと申しますのは一略一水と日當りのよい所

1926年 3 月 57頁 子供室は六ヶ敷い

遠藤 新

(子供室) 日當りのよい、光線の充分なところ—それには南向き、窓大きく風通しよろしき様—尤も遊ぶところが、南なら住むところは北でもよろし

1926年 4 月 126頁 私の巢

吉屋 信子

(居間兼応接室) 八畳ほどの廣さ、南側に入口を持ち、東と南に、かなり廣い窓のある明るいへやです

1926年 4 月 127頁 私の巢

吉屋 信子

夜半の盗人諸氏の闖入をお断りする為に止むを得ず居間から廊下の間へ一つの扉を置き更に寢室の入口も扉にしてこんなせゝこましい事になりました

1926年 4 月 137頁 私の住居 丘の上に建てた家

間野千代子

南側一帯東側も殆どガラスの戸で、西にも北にも一部の窓があります。近所の子供が「あのガラスの家」といったさうです

1926年 4 月 137頁 私の住居 丘の上に建てた家

間野千代子

子供達の勉強室にも日光が一杯跳りこんできて、なかなか陽氣です

1926年 4 月 137頁 私の住居 丘の上に建てた家

間野千代子

夏は北にも窓がありますから南から、北に吹き抜けて涼しい

1926年 4 月 137頁 私の住居 費用十圓で縁側を擴げてサンルームに

読 者

1926年 4 月 139頁 私の住居 狭い家を廣く住んで

読 者

四疊半は居間兼客間として子供も晝はここで遊ぶやうに定め

1926年 4 月 139頁 私の住居 狭い家を廣く住んで

読 者

座敷の方は従來日本式の寢床にしてゐたのを寢臺に改めました。さうすると四疊半でも夫婦と子供の寢室として充分ゆとりがあります

1926年 4 月 139頁 私の住居 狭い家を廣く住んで

読 者

炊事も下駄ばきのまゝでするやうになってゐたのを一體に板を敷き、スリッパをはくやうにしました。下駄ばきで食物拵へは不衛生でもありますので板を敷いたのでございます

1926年 4 月 139頁 私の住居 狭い家を廣く住んで

読 者

家の建て方は和式でも道具を洋式にすれば夜具、座蒲團を持ち運んだり、しまつておいたりすることがいらないので大變廣々としていつも家の中が整ってみえます

1926年 4 月 142頁 私の住居 部屋の利用でリビングルーム

読 者

簞笥だの道具を一と部屋一と部屋におかないで、一つの室にまとめて置きます。そして家の中に二室通しの部屋を作ります。中の襖を外してしまひまして廣々としておきまして家中の人が使ふことに致します



- 1926年 5 月 42頁 衣食住のこと 依田信太郎  
 外國の生活に比べて、日本は所謂文化的設備に甚だ缺けて居ります。採光とか暖房装置は無論のこと、臺所便所等の衛生裝置が不十分で其の上家庭生活の慰安を増す設備にも乏しい。これは各自が貧弱な獨立住宅を有つ代りに共に依つて文化設備を整へる外國の風習を取り入れるのが或る程度まで必要でありませう
- 1926年 7 月 163頁 住宅改造案に答へて 読 者  
 すっかり洋風なので老人がどうしても聞き入れてくれません
- 1926年 7 月 165頁 住宅改造案に答へて 読 者  
 坪數を儉約してありますから應接間は作りません。玄關を入った四疊半の板間に作りつけのベンチを設け一略一簡単な用談はこゝですませ
- 1926年 7 月 165頁 住宅改造案に答へて 読 者  
 友人や親近者には居間を開放し
- 1926年 9 月 99頁 農家の臺所を理想的に改造する法 徳永 庸  
 (臺所) 衛生的でなければなりません。それには室内の採光を充分にして明快にすること
- 1926年 9 月 101頁 農家の臺所を理想的に改造する法 徳永 庸  
 窓は高く天井のすぐ下迄設けるのが採光の點から工合の良いものですが、日本風の家をあまり手數かけて、模様替をすることは困難な場合もあり窓障子は床上六尺位としその上に廻轉の欄間を設けて採光と換氣とに備へ、尚充分なる採光を望む場合は天窗を設くるがよい
- 1926年 9 月 101頁 農家の臺所を理想的に改造する法 徳永 庸  
 今日のように冷蔵設備が行き届いて來ますと日當りの良い方が乾燥して
- 1926年 9 月 101頁 農家の臺所を理想的に改造する法 徳永 庸  
 普通臺所の窓は東に面することが最も理想とされてゐます
- 1926年 9 月 106頁 働きよい私どもの臺所 読 者  
 臺所の必要とする條件は明るいこと。風通のよいこと
- 1926年 9 月 106頁 働きよい私どもの臺所 読 者  
 出来れば流しもとに日光をうけること
- 1926年10月 129頁 和洋折衷小住宅の設計を批判して 徳永 庸  
 日常頻繁に使用せられる室を日當りよき東や南の方位に撰び、浴室・便所・等は北側に配置した事などは誠に要を得たもの
- 1926年10月 129頁 和洋折衷小住宅の設計を批判して 徳永 庸  
 家族が集って茶を喫しながら談話に興じたり時には夕食をとり得る程度の居間
- 1926年10月 131頁 和洋折衷小住宅の設計を批判して 徳永 庸  
 臺所に卓を設けて食事を済ますことは輕便で、多忙な人の朝食や仕用人の食事のためには喜ばれてゐるが、常に狭い臺所の隅で食事を取ることは決して愉快なものではない。夕に食卓を團んで一家揃つて主婦の手料理に舌鼓を打つと云ふことは家庭生活の樂みの大なるものゝ一つであらう
- 1926年12月 100頁 八角の望樓を持つ佐藤春夫氏の家 記 者  
 この家の特色は窓で、どの部屋も採光と通風とが十分であるが、しかし明るい部屋ばかりでなく、日本間茶室などは在來の儘で光を惜しむなど、明暗交々の變化がある
- 1926年12月 101頁 八角の望樓を持つ佐藤春夫氏の家 記 者  
 食堂の窓は亀甲形に庭に突き出てゐる



- 1926年12月 154頁 家族八人の住宅設計の批判 徳永 庸  
なるべく各部屋を獨立に使用することが出来るやうに、しかも必要に應じては廣い部屋に使へるやうに致しました
- 1926年12月 155頁 家族八人の住宅設計の批判 徳永 庸  
在來の住宅は家族の生活よりも、客本位に作られたものですが、今後の住宅は家族の生活を基として考案されたものでなければなりません。その意味で居間は相當の廣さが必要であり、挿花を飾る床の間位は設けて置きたい
- 1926年12月 155頁 家族八人の住宅設計の批判 徳永 庸  
居間は主婦の平常居る室であり、一家團欒する所で、洋風住家のリビングルームに相當するもので、日當りがよくて、衛生的な場所を選ぶと共に相當の廣さが必要です
- 1927年 1月 104頁 砧村に建てた私たちの家 らいてう  
應接室はわざととりませんでした。大抵のお客様は食堂へお通しすればいい
- 1927年 4月 29頁 三四千圓で出来る小住宅設計 遠藤 新  
應接はベランダでも済む
- 1927年 4月 33頁 三四千圓で出来る小住宅設計 読 者  
ヴェランダの朝は、春近い日ざしを浴びつつ新聞を読むのにいい。夏來なばここが團欒の中心になる
- 1927年 5月 55頁 千圓と千五百圓の住宅 今 和次郎  
奥さんの居間で、茶の間でまた寢室です
- 1927年 5月 257頁 日本一の二軒長屋 記 者  
臺所からして改善してやりたいと思ひます。日光の少しも通らないやうな暗い臺所
- 1927年 7月 260頁 衣食住 希望二つ三つ 読 者  
住居では、食堂と客間を腰掛けにしたいと願はれます。此頃のやうに洋服のお客が多くなりましては、痛切にこれを思ひます
- 1927年 7月 261頁 衣食住 衣食住に就て 読 者  
服裝の関係上、どうしても、腰掛ける方が、便利なので、住居も勢ひ西洋まがひの、外國で申せばお長屋同様な家に住んで居ります
- 1927年 7月 263頁 衣食住 好み 読 者  
洋館は窓の大きく多い明るい方が好きですが、日本家は明るい事をさほど欲しません。軒の深い、暗くも、しつとりとおちついて居ることをのぞみます
- 1927年 7月 275頁 衣食住 頭腦労働者の衣食住 読 者  
今尚、零下七八度になる東京邊の女學校や寄宿舍等に、火鉢にかちりつくより他の保温法がなかったり、普通の家でも火鉢をかゝえて毛布をまいて、頭腦を働かせやうとして、冬中奮闘する知識階級の狀態もどうかしたい者です
- 1927年 9月 22頁 石原さんの家 遠藤 新  
東南に折り曲げての窓は巾の割りに高さを低く。要するに、この部屋の採光は、主として中央の連窓から高い天井に投げ込ませる工夫
- 1927年 9月 22頁 石原さんの家 遠藤 新  
中心は何といふても居間一略一但しこれは接客も食堂も兼帯
- 1927年 9月 109頁 お臺所の改造 読 者  
臺所の前一間の欄間は無窓窓に、湯殿の側の高窓の上は、日を入れるため天井までガラスを



- 1928年4月 11頁 新しき住居 米川 正夫  
十二疊の居間兼食堂が、家族のすべてに對して愛想よく抱擁力に富んでゐる
- 1928年4月 50頁 「住宅」についての座談會  
日光は東南が一番よく
- 1928年4月 101頁 家を建てるまで 二千二百圓で純日本家屋 読 者  
日光のよく入る衛生的な居心地の好い家
- 1928年4月 105頁 素人設計で出来た我家 読 者  
臺所、浴室、化粧室を東南の最上位に置きましたことは、専門家の反對がございましたが、主婦の働き場としての臺所を、冬暖かく夏涼しく明るく便利にするには、多少體裁を犠牲にしてもとの考へから
- 1928年7月 86頁 日本間を涼しげな洋風にかへるには 木檜 恕一  
客間を兼ねた書齋です一略一南には縁側があり北に出窓のある明るくて涼しい室です。まづ夏の強い光線の反射を避けるため洋館に日除けを用ふる様に軒先に簾を掛けます
- 1928年7月 89頁 日本間を涼しげな洋風にかへるには 木檜 恕一  
食事室の方は北と東に大きな出窓があつて明るい気持ちのよい室
- 1928年7月 92頁 蚤も鼠も出ない塵のたゝない家 記 者  
日當りをよくするためにこの家の南側を殆ど硝子窓にした
- 1928年7月 92頁 蚤も鼠も出ない塵のたゝない家 記 者  
日當りをよくするためにこの家の南側を殆ど硝子窓にしたことが、埃を完全に防ぐことにもなつて、家中どこにも塵が溜まらないので、掃除の手間が殆どかかりません
- 1928年10月 59頁 臺所の工夫いろいろ 習慣の陥つてゐる誤 読 者  
床下を全部コンクリートで疊み、更に數個に區劃して一略一なるべく冷暗所を
- 1928年10月 60頁 臺所の工夫いろいろ 習慣の陥つてゐる誤 読 者  
東の窓を上下開閉式に（通氣に便じ）
- 1928年10月 62頁 臺所の工夫いろいろ 貸家の臺所を直す 読 者  
明るく日光のとれるやうに硝子窓をつける
- 1928年10月 62頁 臺所の工夫いろいろ アイディア 読 者  
明い所ほど黴菌が少ないといふことです。病は口からといひ、食物の調理所である臺所はぜひ日照を必要とするわけです一略一子供部屋寢室などを犠牲にしない限り臺所は出来るだけ南向きの位置をとりたいものです。併し實際には全くの南向きの位置を取るのは困難なことが多くあります。東又は西向の臺所である場合、窓を三角に突出せば、南の光線がとれ、また窓の廣さも大きくなり、通風にもよく、窓際に流しを作ればいつも日光と風とで心地よく乾くでせう
- 1928年10月 64頁 臺所の工夫いろいろ 一坪臺所の特長 読 者  
窓は硝子張り一間四方の所へ一間の窓ですから充分光線がとれて気持ちようございます
- 1928年10月 65頁 臺所の工夫いろいろ 冷蔵庫 小さい工夫 読 者  
冷蔵庫（井戸につけるトタン製の箱）
- 1928年10月 107頁 九百五十圓で出来た家 読 者  
（臺所）二坪、南と東に面して、三尺の腰壁の上に窓、明る過ぎる位明るい
- 1928年10月 107頁 九百五十圓で出来た家 読 者  
（臺所）一部を食堂に使つてゐる。私達は食堂を臺所の延長と見ないで、物の置き方や裝飾に工



夫することによって、寧ろ臺所を食堂に攝りいれた形にしたい

1929年 3月 120頁 中河與一氏の家

記 者

非常に多い、さまざまな訪客を迎えるこの應接間は、どんな病氣が来ないとは限らないので、まだ小さいお子たちへの考慮とご主人の潔癖から、獨立した一部屋にして、あまり家庭的にはしませんでした

1929年 3月 120頁 中河與一氏の家

記 者

子供部屋は東をうけて明るく暖かく、南縁はこの部屋の前で一間あまりの廣さになり、よいサンルームになってゐます

1929年 3月 121頁 中河與一氏の家

記 者

大變よく、日當りのこと通風のことを考へられてゐると思ひます。窓さへ開け放てば、風は矢のやうに吹いて通り、冬は二重三重にも北風を防ぎ得、冬暖かく夏涼しい家でありませう

1929年 6月 71頁 主婦の団結で村中の臺所を改善す

塚本 ハマ

窓一狭い臺所を明るくするために、今までのやうな不完全な格子を廢めて、どこの臺所も大きな硝子窓にしましたえ

1929年 6月 71頁 主婦の団結で村中の臺所を改善す

塚本 ハマ

黒土村でどんな條件を臺所改善の目標にしてゐるかと申しますと、第一に臺所の採光

1929年 6月 129頁 趣味の家 工夫の家

記 者

(アトリエ) 北面の壁を全部摺硝子戸にしてあるので、普通の部屋よりもよほど明い

1929年 9月 9頁 三千圓で出來た私の家

今 和次郎

在来日本風の八疊に廻縁を付けた室で、床の間はとってありません

1929年 9月 108頁 「新しい木綿の浴衣」の家

記 者

西と南に豊かに開かれた居間の窓には一日中陽がさして

1929年10月 グラビア 二千圓で建てられた家族五人の家

記 者

十分に陽の射す、十分に風の通る、無駄なく工夫された

1929年10月 46頁 アパートに住んで働く夫婦

読 者

お掃除といへばアパートではほんとうに簡単にすみます。縁側や廊下がありませんから拭く手間もありません

1929年10月 46頁 アパートに住んで働く夫婦

読 者

アパートにゐる第一の喜びは、留守の間の心配の要らないことをごさいます

1929年10月 47頁 アパートに住んで働く夫婦

読 者

家の留守番のための妻でなく、仕事の上では友達でもある妻なのです

1929年10月 117頁 建てた家のこと

今 和次郎

純日本屋ですが床の間や飾棚は作りません

1929年10月 117頁 建てた家のこと

今 和次郎

居住の部分は殆ど居間だけに集中

1929年10月 118頁 小住宅の間取り

櫻井 省吾

住宅の間取りは出来るだけ東西に長く凡ての室が南向きになるやうに

1929年10月 118頁 小住宅の間取り

櫻井 省吾

住居として心地よいのはなにを置いても日光が充分に當る事と、風通しのよく出來た事です



- 1929年10月 119頁 小住宅の間取り 櫻井 省吾  
元來は客間等を東南の最もよい位置に設けられてきたやうですが住居を主眼とすることから考へると、寧ろ居間等を最上の場所に置き客間の類はこの次でもよい
- 1929年10月 119頁 小住宅の間取り 櫻井 省吾  
臺所は餘り廣くても足數許り運んで能率が悪くなりますし、狭すぎれば不自由になりますからその家に合ふやうに考へなければなりません
- 1929年10月 119頁 小住宅の間取り 櫻井 省吾  
臺所—これは出来るだけ南側にもってゆきたく思ひます—調理という重大な役目をもって出来るだけ光線を多量に入れ不潔物等が一寸あっても氣が付くやうにしたい事と流し元を充分な日光で常に乾燥させたいため
- 1929年10月 119頁 小住宅の間取り 櫻井 省吾  
一年中太陽がよく當るには、眞南とするよりも東に十度か十五度傾けて家を建てるとうよいのです。冬は室の奥まで日が入るし夏は太陽の位置が高くなるから冬程深くは入って來ない
- 1929年12月 5頁 近代模範小住宅 吉川 清作  
家中の床を全部水で洗ふことも出来て經濟的且つ衛生的
- 1929年12月 6頁 田舎風な家 矢田 茂  
西洋式の便利な科學は取り入れるが表現は日本式のものにしたい
- 1929年12月 6頁 田舎風な家 読 者  
一日の務めを終へて家へ帰りついたとき疲れた頭や體の安住地を見出したやう氣分の家が欲しい
- 1930年11月 35頁 グループ住宅懸賞當選發表(1) 記 者  
床の間といふが如きものは略し
- 1930年11月 36頁 グループ住宅懸賞當選發表(1) 記 者  
二階の寢室はまた他の寢室を通してでなければ奥の寢室に行けないなどは困ります
- 1930年11月 37頁 グループ住宅懸賞當選發表(2) 記 者  
主婦居間 一家團欒の部屋ですから夏は涼しく冬は暖かく家中で一番よい部屋をとりました
- 1930年11月 37頁 グループ住宅懸賞當選發表(2) 記 者  
凡ての建物に採光の平均している配置が結構と思ひます
- 1930年11月 44頁 グループ住宅懸賞當選發表(5) 記 者  
鋸歯状の利点は採光
- 1930年11月 46頁 グループ住宅懸賞當選發表(6) 記 者  
卅の四軒建はいろいろ難のある案です。日當りがその一つです
- 1930年11月 65頁 住み方さまざま 七坪半の家から 記 者  
お手傳の室の入り口はポーチの北側、内部と全然交通のないのはお手傳にほんとの安息を與へるのと、その他にも家族とのプライベートな頻はしさが少なくなることがあるでせう
- 1930年11月 118頁 住み方さまざま アパート生活 読 者  
外出の時も鍵一つで済むし、さういふ點は随分便利です
- 1930年11月 119頁 住み方さまざま アパート生活 記 者  
雨戸の開けたてがなく、雑巾がけがないのでお掃除は早く、板敷の床は油でよく拭きこみ、丁寧にお掃除しても七時すぎには朝食の後片付けも一緒にすっかり済んで終ふさうです



- 1931年 2 月 5頁 南澤に建った大脇さんの家 土浦 亀城  
夏は風が部屋の大部分を通過する様に窓や出入口の位置を考へてあります
- 1931年 2 月 5頁 南澤に建った大脇さんの家 土浦 亀城  
重要な部屋を南側にし、階段、浴室、便所等を北側にしたのは當然の事ですが、北側に全く太陽があたらないのも、衛生上良くないので、十五度だけ西方にむけて
- 1931年 4 月 133頁 アパート生活細断面 記 者  
この室が四人の子供達にあてられてゐます。従つて居間ともいふべき室ですが、また、こゝは所謂茶の間でもあり、もちろん四人の寢室でも勉強室でもあります
- 1931年 4 月 134頁 アパート生活細断面 記 者  
在来の不経済な床の間は不必要です。いやしくもアパートに住む者には、こんなものに未練をもつやうな氣持は清算されてあるべきなのに、同潤会は尚蟲様突起のやうな不用物を各戸に敢へてつけてゐる。私はこの空間を書棚に利用してしまひました
- 1932年 1 月 59頁 二十二坪半の小住宅 記 者  
一坪半の臺所でどんなに便利に働けるか  
臺所 南をうけてゐる上に、壁も戸棚も全部白ペンキを塗りましたから、明るく氣持ちよい働き場になつてゐます
- 1932年 1 月 60頁 二十二坪半の小住宅 記 者  
一坪半の臺所でどんなに便利に働けるか  
流しの下は網戸にして中は鼠を防ぐためブリキ張り、野菜を入れて置く
- 1932年 4 月 グラビア 南澤の美しい林の中に建った田中さんの家 記 者  
北面に玄關、書齋、便所、浴室、ボイラー室を置き、南面に居間、寢室、食堂その他を配つてあります
- 1932年 6 月 247頁 まことの隣人—友之會々員の住宅を設計監督して— 石川 徹  
私は住宅の機械化を表現しようと思はずに、外での生活の疲れを十分に癒せるやうな住宅をと心がけて
- 1932年 10 月 146頁 冬に向ふ茶の間の用意 記 者  
茶の間といふとそこに一つの室が決定し、そこへ皆が坐りこんで談話の花を咲かすといふやうな連想があり
- 1932年 11 月 88頁 素人の工夫を生かした家—南澤に建った中村貢氏の家 記 者  
家の建て方と間取りを、すべて、東西南北の十文字の直線に取つてありますから、家全體が通風にも採光にも氣持ちのいゝほどよくできてゐます。一日の光線の具合を考慮するとともに、春夏秋冬の日當りの具合、寒暑の具合を考へて造られてあります
- 1933年 10 月 グラビア 山越氏の家 記 者  
居間と食堂 南側の大きな窓は膝位の高さだし、北側のも普通の窓より低いから、足元まで風が通る。この向きは立秋から日射しがだんだん室内に入つて来るから冬は日向を心ゆくまで楽しめる
- 1933年 10 月 グラビア 山越氏の家 記 者  
書齋—南に大きな窓。北側にも細長い窓
- 1933年 10 月 88頁 理想の我が家 健康的な子供本位の家 読 者  
この家には大きなリビングルームがあります。廣さは約三十疊位、カーテンで假り仕切りをして食堂にも應接兼書齋にもという譯です



- 1933年10月 88頁 理想の我が家 健康的な子供本位の家 読 者  
 間取りの主眼は 一、健康的なこと 二、子供本位なこと 三、休息と読書の出来ること 四、  
 來客を主とせざること
- 1933年10月 90頁 理想の我が家 健康的な子供本位の家 読 者  
 子供室は日當りのよい南東の隅
- 1933年10月 90頁 理想の我が家 健康的な子供本位の家 読 者  
 坐つて見たかつたり腰掛けを重寶なものと思ふやうな現在ではこの矛盾そのまゝがよい
- 1933年10月 91頁 理想の我が家 家具の配置を工夫した家 読 者  
 客間は別にしなくても居間と一緒にします
- 1933年10月 92頁 理想の我が家 家具の配置を工夫した家 読 者  
 (居間) 御飯も食べれば、子供も遊び、私の仕事もこゝでしお客様もこゝでします
- 1933年10月 92頁 理想の我が家 家具の配置を工夫した家 読 者  
 子供室 勉強によいやうに落ついた東北の光線を受け
- 1933年10月 96頁 理想の我が家 經濟・能率・簡素 読 者  
 居間 日本間で寢室に兼用し、心易いお客を通す所ともなります
- 1933年10月 97頁 理想の我が家 經濟・能率・簡素 読 者  
 客間 日本間で床、押入がつき、主人の書齋にも兼用します。
- 1933年10月 97頁 理想の我が家 簡素な家を 読 者  
 理想の我が家は出来るだけ簡素でなる可く多くの日光を採り入れた名實共に良き心身の慰安所
- 1933年10月 98頁 理想の我が家 二十坪半の小住宅 読 者  
 東と南の出窓を思ひ切り幅廣くして部屋に廣さと明るさを充分取入れて、洋室乍ら明け廣げた日  
 本間の氣分を思はせたい
- 1933年10月 100頁 凡ゆる意味での実験住宅 山越 邦彦  
 暖房を特殊のパネルヒーティングに
- 1933年10月 100頁 凡ゆる意味での実験住宅 山越 邦彦  
 通風、採光は出来るだけ充分にした。通風は自然換氣に依るが、窓の位置、構造等により最小勞  
 果で最大効果を擧げてゐる
- 1933年10月 102頁 凡ゆる意味での実験住宅 山越 邦彦  
 居間は家の中心に、読書室と食事室に連絡して、この三室はカーテンで境し、何室でも一つの太  
 きい部屋として使用出来る
- 1934年 5 月 159頁 十八坪の組立式耐震木造家屋 記 者  
 應接間、食堂、居間を兼ねた廣いお部屋、南に面した四枚の大きいガラス戸から暖かい日射が部  
 屋一杯に差こんでゐる
- 1934年10月 154頁 小住宅展覽會 同潤會住宅1号 記 者  
 部屋は三室とも南向きですから陽もよくはいつて、いかにも明るく暖かさうです
- 1934年10月 156頁 小住宅展覽會 同潤會住宅2号 記 者  
 客間は居間の方と全然獨立してゐる